

遙かなり

校長 鈴木 恵一

この6ヶ月間、生徒の皆さんの辛抱強い取り組みと保護者の皆様のご理解とご協力に感謝いたしております。

高校入試や晴れの舞台である卒業式・入学式が厳戒態勢のなかで実施され、こんな状況が一体いつまで続くのだろうと思っていた矢先の非常事態宣言と長期の臨時休校。不安が不満を生み、不満が怒りを生み出すという負の連鎖が続き、企業活動、教育活動、社会全体に閉塞感が漂っていました。学校が再開したあたりから、ニューノーマル「新しい日常」が当たり前になりました。現在は、経済・労働環境はもとより家庭環境、学習環境のすべての場面においてニューノーマルへの転換が求められています。仏教の教え「当たり前」の反対は「有り難し」の言葉が心に沁みます。ビフォーコロナの当たり前だった生活よ、今まで有り難う。私たちは新しい生き方を創造します。

学校公式サイトに載せている「校長つうしん Mercury」はコロナ禍以降60編ほど書きました。我ながらつまらないことを書いているなあと思うこともありますが、勉強のことや部活のこと、人としての心のありようなど、何かしら書き続けなければいけないという思いに駆られていました。書くことで自分自身に言い聞かせていたのかもしれませんが、^{むい}齢六十にして「残りの人生をどう生きるべきか。自分自身とどう向き合おうか」という問答の繰り返しは自己との濃厚接触です。

「飯が食える大人になろうよ。そのために自ら問いを立てて考えるんだ」と言い続けてきた手前、道に迷って立ち止まっている若者がいたら、大人として一緒に考えながら時々背中を押してあげられる、そんなジジイでありたいと思うのです。

本校はこれまでの3年間、文部科学省指定のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールとして実に多くの学びと気付きを得ました。あなたは「ヒト、カネ、モノ、コト」を軸にした社会の動きが実に多様であることを学び、ごくありふれた日常のなかにグローバルの要素がたくさんあることに気付いたことでしょう。札幌市が力を入れているインバウンド政策（訪日外国人旅行客の誘引）もまたヒト、カネ、モノ、コトがグローバルに流動しています。皮肉なことにコロナウイルスにも国境はなく観光頼みの地域の脆弱性が露呈する格好となりました。

見えないウイルスとの戦いを通じて、世界が連帯して協力するという新たなグローバルイズムと共に何か得体の知れない巨大な利権も見え隠れしています。SDGs（持続可能な開発目標）には「一人ひとりの心がけが世界を変容させる」という理念があります。私たちはこの半年間で個々人の言動、心がけが社会を変容させることを学びました。あなたも私も、ヒト、モノ、コトに心を差し向ける「こころざし」を高く持つことで未来を変えられるのです。遙かなる未来のために、はてしないモノ語り、コト語りを紡ぐのです。厳しい冬を耐え忍んで成長してきた道産子どもの。